

テーマ：「東映太秦映画村」校外学習

<2024年1月31日（晴天）10:00～14:00 迄：京都・東映太秦映画村>

受講生22名+CA2名（廣瀬&岸本の両氏） 計24名

（担当：2班）

阪急大宮に10時集合、嵐電にて目的地・太秦映画村へ。 いざ入場してみれば、将に我が学科「江戸時代にタイムスリップ」とリンクした家並みを模した「オープンセット」が目覆った。

そもそも当施設は、1951年（昭和26年）に設立した東映京都撮影所が、屋外スタジオとして京都太秦に建設したもの。それを1975年（昭和50年）日本で初めて、時代劇撮影（主に江戸時代）をライブ見学できるテーマパークとして公開し、それを以て誕生させたのがこの「東映太秦映画村」である。

母体である東映京都撮影所は、映画製作本数≒2,000本、テレビドラマ本数は≒9,000本を輩出し、その他、短編映画やコマーシャル作品等々、数多くの製作実績を誇っている。

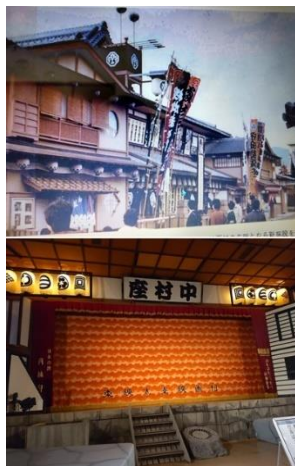
さて我がONCCお奨めの、主な見学コースは ①激突！忍者ショー「シノビノオキテ」、②芝居小屋「中村座」 ③ロケ地オープンセットの見学（説明&ガイド役、東映女優：小島徳子さん）

先ずは①忍者ショー「シノビノオキテ」だが、我が学習テーマには、少々現代的で娯楽性が高すぎて、教材には成りえず、むしろ振付やストーリーからして、外国人ツーリズムツアー用のアトラクションとしては、価値ある立派な出し物（観光ツール）と思えた。次に②芝居小屋「中村座」は江戸時代の大衆演芸のメッカ的雰囲気表現している。出し物や多種多様のロケ撮影にも適応力が発揮できる建物に造られており、中心的建造物である。本日メインの校外学習は、当敷地≒53,000㎡の大半を占める江戸時代の街並み（オープンセット）に沿って ③ロケ地を担当ガイド付きで解説を受けながら、各建屋の表記の意味合い・目的・沿道の狙い・小道具の配置・歴史的な表記・ロケ地撮影作品名・多く撮影に使われた道や池また橋や背景等々、理解し易い説明でしっかりと学習出来ました。

関連写真



左上：阪急大宮で集合・右上：嵐電に乗換・下：東映太秦映画村表玄関



上：芝居小屋「中村座」
下：演劇等のステージ



左側：長屋住まい（番傘張りの内職姿）
右側：長屋横丁風景（土間付き一間）



ロケ地の担当ガイドで、現役女優（小島徳子さん）

追記、今年4月より2028年まで5年間かけて、段階的に全面改修し2025年には、第一期エリアを終えオープンする予定。現存の施設は≒50年の月日を経過しており、今から費用も30億円を費やしフルリニューアル実施するとのことである。